

イラストレイテッド ミニマム創 内視鏡下泌尿器手術

木原和徳 著

＜書評者＞ 並木幹夫 [金沢大学大学院医学系研究科がん医科学専攻・
集学的治療学（泌尿器科学）教授]

ミニマム創内視鏡下泌尿器手術は、木原和徳教授が考案された素晴らしい手術法である。この手術のコンセプトは“安全”で“根治性”に優れ、“低侵襲性”で、かつ“経済的”な手術である。泌尿器科領域で同じ低侵襲性を特長とする腹腔鏡下手術も急速に普及してきたが、経験の浅い泌尿器科医にとっては修得に時間を要する。特に難易度の高い腹腔鏡下前立腺全摘術は、厳しい施設認定があるため普及が遅れている。

一方、ミニマム創内視鏡下泌尿器手術は従来の開放手術の経験を生かせるため、learning curve が腹腔鏡下手術より早いと予想される。また、緊急事態にも迅速に対応できるため安全性が高く、広汎な普及が期待されている。しかし、実際にこの手術を開始するには、使用する器具の購入、手術操作の学習・訓練など準備しなくてはならない事項は多い。ところが、そのためのいわゆるガイドブックやビデオなどは必ずしも多くない。こうした理由で、ミニマム創内視鏡下泌尿器手術に関心はあっても、実際に導入できていない泌尿器科医は多いと想像される。このよう

な状況下で、今回上梓された木原和徳教授著『イラストレイテッドミニマム創 内視鏡下泌尿器手術』は初心者から経験を有する泌尿器科医まで、大変参考になる手術書である。

はじめに、第1章でこの手術の概念について、あえて“メッセージ”という言葉で木原教授は次のように述べられている。

◆ガスを使わず、腹腔内は操作せず、立体視と拡大視を併用しながら、気持ちの余裕を持って（いつでも創を延長できる）、お金をかけずに、先達の財産（開放手術操作）を継承した低侵襲手術である。

◆若い医師でも比較的容易にできる。

◆すべての開放手術の低侵襲化につながる。

まさに、患者にも手術を行う医師にも木原教授の心遣いが感じられる言葉であり、巻頭から木原ワールドに引き込まれる。

弘法筆を選ばずというが、初心者にとってはいかに便利な手術器具を使うかで、手術自体の難易度も変わってくる。次の手術器具の章では、ユニークな手術器具によ

る、いわゆる手術のコツを伝授しておられる。

さて、本題の手術手順の解説であるが、上部泌尿器手術の基本として根治的腎摘術、下部泌尿器手術の基本として前立腺全摘術に、それぞれ36頁と32頁が割かれており、この両手術ができればすべての泌尿器臓器のミニマム創内視鏡下手術が可能であると述べておられる。手技の説明は、解剖に忠実に臨場感のある詳細なイラストを駆使して理解を容易にしている。副腎摘除および腎尿管全摘術、腎部分切除術、それに膀胱全摘および骨盤リンパ節郭清は両手術のバリエーションとしてポイントを解説し、最後の章は改変ミニマム創内視鏡下手術として、巨大腎癌も巨大後腹膜腫瘍までも、同じ手法で低侵襲化できるということを証明しておられ、安全な低侵襲手術にかけける熱意がひしひしと伝わってくる。

世に優れた手術書は多いが、この『イラストレイテッド ミニマム創 内視鏡下泌尿器手術』はまさに新しい時代の手術書として、多くの泌尿器科医が座右に置いて活用されることを強く推薦したい。

●A4 頁152 2007年
定価14,700円
(本体14,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-00481-7]
医学書院刊